

無人島になった善入寺島

善入寺島は、徳島県阿波市と吉野川市に位置する吉野川最大の川中島です。大正初期には約 500 戸、3,000 人ほどが住んでいましたが、現在は無人島です。なぜ無人島になったのでしょうか。

東西約 6km、南北約 1.2km、面積約 500ha に及ぶ善入寺島には古くから人が住み、農作物の生産が行われていましたが、洪水の度ごとに被害を受け、島全体が水没することもありました。明治 18 年に国による吉野川改修工事が下流で始まった時、善入寺島の人々も島が安全になることを期待しましたが、明治 21 年の洪水により石井町西覚円の堤防が決壊して甚大な被害が出た時に、その原因が国の改修工事などにあるとして住民が改修工事の廃止を県に働きかけたため、明治 22 年に吉野川改修工事は中止されました。しかし、その後も善入寺島では洪水により農作物に被害が出たり、家屋が流出するなど水害がたびたび発生し、さらに明治 35 年には洪水により渡船が転覆して八幡尋常高等小学校に通学途中の女生徒 5 人が死亡する惨事が起こるなどして、吉野川改修工事への地元の要望は高まりました。

吉野川の改修に向けてさまざまな動きがありましたが、国による本格的な吉野川改修工事が再開されたのは明治 40 年のことでした。それ以降昭和 2 年にかけて、岩津（阿波市）から河口に至る約 40km の区間で吉野川第一期改修工事が行われましたが、この吉野川第一期改修工事には、吉野川の治水上の安全度を高めるために、善入寺島を河道に編入して洪水時には善入寺島を遊水池とする計画が含まれていました。この計画を進めるためには、善入寺島の人々は立ち退かなければなりません。明治 42 年に国が善入寺島の住民に全島買収の方針を伝えたところ、島民は吉野川の洪水対策の必要性を理解しながらも、先祖伝来の地を守ろうとしました。

島の代表者が県庁を訪ね、国に対して計画変更を求めるよう陳情するなどしましたが、結局、国の方針を動かすことはできませんでした。明治 45 年には島民の大部分が買収に調印し、大正 3 年までに 100 余戸が立ち退き、大正 4 年には残り 400 戸ほどに対して強制退去命令が出されました。島民は周辺の川島、学島、鴨島、市場、徳島市などに移住し、遠くは大阪、北海道、朝鮮に新天地を求めて行きました。善入寺島を見渡す吉野川市川島町城山に「移転の碑」が建てられています。

住んでいた人々が立ち退き、善入寺島が遊水池となることによって、徳島市をはじめとする吉野川下流の治水安全度は高まりました。

<参考文献：建設省四国地方建設局徳島工事事務所編「吉野川百年史」1993 年、市場町史編纂委員会編「市場町史」1996 年、八幡町史編纂委員会編「八幡町史」1955 年など>

